

検 定 意 見 書

受理番号 103-127		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学Ⅱ	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	13	7 - 8	この $10/x$, $10/x+2$ などのような分母に文字を含んだ式を, 分数式という。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (分母にのみ文字を含んだ式を分数式というかのよ うに誤解するおそれがある。)	3-(3)	
2	41	5	両辺がともに0以上であるときは,	生徒にとって理解し難い表現である。 (「両辺」が何を指すのか分からない。)	3-(3)	
3	86	9 - 10	地球儀, 月球儀, カメラの位置をそれぞれ点A, B, Pとする。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「点A, B」が何か分からない。)	3-(3)	
4	103	12 - 13	$y=\sin\theta$ のグラフをy軸方向に2倍したものである。 ほか13~14行右の側注の「 $y=\sin\theta$ のグラフをy軸方向にa倍したものである。」,	不正確である。 (何を基準にしているのか分からない。)	3-(1)	
			105ページ2行右下の側注の「 $y=\sin\theta$ のグラフを θ 軸方向に1/a倍したものである。」,			
5	111	側注	24行右の側注「→p.117 Training 1 (1), (2)」 ほか112ページ12行右の側注「→p.117 Training 2」, 21行右の側注「→p.117 Training 1」,	誤りである。	3-(1)	
			113ページ21行右の側注「→p.117 Training 3」, 115ページ16行右の側注「→p.117 Training 4」			
6	118	グラフ	$\square 2$ のグラフ	不正確である。 (軸に単位が示されていない。)	3-(1)	
7	122	16 - 19 左	指数法則の「m」, 「n」	不正確である。 (何か示されていない。)	3-(1)	
8	151	8	「Training」の3(1)	組織が適切でない。 (3行の「Training」の1(1)と同じ問題となっている。)	2-(12)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-127		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学Ⅱ	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
9	153	側注	19行右の側注の「少数で表し」	誤りである。	3-(1)	
10	192	7 - 8	2曲線をどちらもmだけ平行移動して	不正確である。 (どの方向に平行移動するのか示されていない。)	3-(1)	
11	197	図	右上の図の「r cm」	生徒にとって理解し難い表現である。 (4行の「この容器の底面の半径をx cm」との対応が分からない。)	3-(3)	
12	213	26 右	「p. 73 問6(3)」の解答	生徒にとって理解し難い解答である。 (73ページの間6に(3)はない。)	3-(3)	
13	216	8 右	「p. 90 □5」の解答	誤りである。	3-(1)	
14	217	グラフ	右段7行「p.105 問14」の解答のグラフ	誤りである。	3-(1)	
15	219	28 左	「p.137 Training」の1(4)の解答	誤りである。	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-128		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学Ⅱ	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	上巻 14	4	2つの複素数が等しいとき、次のように定めます。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「等しいとき」と5-7行の記述との関係が分からない。)	3-(3)	
2	33 - 64		2章 図形と方程式	学習指導要領に示す内容に照らして、扱いが不適切である。 (内容(2)のアのウ)「軌跡について理解し、簡単な場合について軌跡を求めること。」に照らして、扱いが不適切である。)	2-(1)	
3	72	側注	11-12行右の側注「そのグラフがある区間ごとに同じ形をくり返す関数」	不正確である。 (周期関数の定義として)	3-(1)	
4	74	3 - 4	y=sin θ のグラフをy軸方向に2倍したものです。 他に、4-5行右の側注「y=sin θ のグラフをy軸方向にn倍したものです。」、8-9行右の側注「y=sin θ のグラフをy	不正確である。 (何を基準にしているのか分からない。)	3-(1)	
			軸方向に1/2倍します。」 75ページ5-6行「y=sin θ のグラフを θ 軸方向に1/2倍したものです。」、5-6行右の側注「y=sin θ のグラフを θ 軸方向に1/n倍したもの」、10-11行右の			
			側注「y=sin θ のグラフを θ 軸方向に2倍します。」 下巻19ページ左段7-8行「y=cos θ のグラフをy軸方向に2倍したものである。」、10-11行「y=sin θ のグラフをy軸			
			方向に1/2倍したものである。」、14-15行「y=cos θ のグラフを θ 軸方向に1/2倍したものである。」、18-19行「y=sin θ のグラフを θ 軸方向に2倍したものである。」			
5	95	25 - 26	問15	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (どのような設定か分からず、解答できないという支障を生ずるおそれがある。)	2-(1)	
6	103	側注	2-5行右の側注「+解説」	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (どのような電卓でもこのような操作で計算できると誤解するおそれがある。)	3-(3)	
7	107	21 - 25	考えてみよう?	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (調べる範囲が分からず、考察できないという支障を生ずるおそれがある。)	2-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-128		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学Ⅱ	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
8	113	22	x=3を代入します。	誤りである。	3-(1)	
9	127	9 - 10	例題2 他に、22-23行「問6」	生徒にとって理解し難い表現である。 (「f(x)」と「F(x)」の関係が分からない。)	3-(3)	
10	136	11 - 19	考えてみよう？	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (点Aの位置が分からず、考察できないという支障を生ずるおそれがある。)	2-(1)	
11	137	1	→ 4章 指数関数・対数関数	相互に矛盾している。 (4章の表題と異なる。)	3-(1)	
12	138		課題学習 落下したときの瞬間の速さは？	学習指導要領に示す内容に照らして、扱いが不適切である。 (内容〔課題学習〕の「生徒の主体的な学習を促し」に照らして、扱いが不適切である。)	2-(1)	
13	下巻 10	32 - 33 左	「教科書P.35」の間4(3)の解答における「点Mは、～点Cから2目もり右の点である。」	誤りである。	3-(1)	
14	17	2 右	教科書P.54	誤りである。 (教科書54ページに「章のまとめ」の問題はない。)	3-(1)	
15	30	表	「教科書P.122」の間6(1)の増減表における「極大 2」	誤りである。	3-(1)	
16	35	20 - 21 左	「教科書P.135」の？(3)の解答における「パウンドケーキ10本」	誤りである。	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-129		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学Ⅱ	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	82	13 - 15	$y < -x + 2$ と $x^2 + y^2 > 4$ に共通する部分を考えます。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「共通する部分」とは何か分からない。)	3-(3)	
2	85	15 - 16	「北緯35度、東経135度」の地点は、兵庫県明石市にあり、及び17行の下の日本地図の経緯度線	不正確である。	3-(1)	
3	106	7 - 8	$y = \sin \theta$ のグラフを、y軸の方向に2倍に拡大したものです。他に、107ページ8-9行「 $y = \cos \theta$ のグラフを、 θ 軸の方向に1/2倍に縮小したものです。」、111ページ19行右の	不正確である。 (何を基準にしているのか分からない。)	3-(1)	
			側注の「 $y = \sin \theta$ のグラフをy軸の方向に1/2倍、 θ 軸の方向に1/2倍に縮小したものです。」			
4	126	側注	23行右の側注の「34ページ確認問題2」	誤りである。 (34ページに「確認問題2」はない。)	3-(1)	
5	149	側注	20行右の問題7のヒントの「x時間後のバクテリアの個数は 2^x 個」	不正確である。 (個数については示されていない。)	3-(1)	
6	150 - 151		課題学習④ 化石などがどのくらい昔のものか知る方法	学習指導要領に示す内容に照らして、扱いが不適切である。 (内容「課題学習」の「生徒の主体的な学習を促し、～数学的に考える資質・能力を高めるようにする。」に照らして、扱いが不適切である。)	2-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-130		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学Ⅲ	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	3	8 右	コラム 微分積分法の発展……194	相互に矛盾している。 (194ページの表題と異なっている。)	3-(1)	
2	41	3 - 8	31ページの例題5では、～一致することを確かめた。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「例題5」がどこまでを指すのか分からない。)	3-(3)	
3	61	2	発散する2つの関数の大小	生徒にとって理解し難い表現である。 (本文との対応が分からない。)	3-(3)	
4	62	12	練習問題Aの5(1)	生徒にとって理解し難い問題である。 (数列になっていない。)	3-(3)	
5	64	11 - 13	ここで、 n の値を十分大きくすると、右上の図からも分かるように、 a_n は $f(x)=0$ の解に近づいた値になる。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (いつでも近づいた値になると誤解するおそれがある。)	3-(3)	
6	90	5	サイクロイドの方程式 他に、15行「 θ を媒介変数とするサイクロイドの方程式である。」	生徒にとって理解し難い表現である。 (どのような方程式なのか分からない。)	3-(3)	
7	101	1 - 3	導関数 $f'(x)$ は、もとの関数のグラフの各点での傾きを表す。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「各点での傾き」が何を表すのか分からない。)	3-(3)	
8	116	11	その区間の任意の2点 他に、12行「その区間の任意の2点」	生徒にとって理解し難い表現である。 (どのような2点か分からない。)	3-(3)	
9	138		活用 「 $R=100$ 」とは何か?	学習指導要領に示す内容と客観的に区別されておらず、また、発展的な学習内容であることが明示されていない。 (曲率半径の学習)	2-(17)	
10	175	9	積分区間	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく分からない。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-130		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学Ⅲ	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
11	191	4	底面の半径が3の円柱の直径ABを含み	生徒にとって理解し難い表現である。 (何の直径か分からない。)	3-(3)	
12	203	16	区間の下端	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく分からない。)	3-(3)	
13	217	図	「1節問題 (P. 78)」の7(3)の解答の図	生徒にとって理解し難いグラフである。 (どのようなグラフか分からない。)	3-(3)	
14	218	4 右	「1節問題 (P. 120)」の1の「接点 (36, 6)」	生徒にとって理解し難い解答である。 (なぜ接点を解答に含めるのか分からない。)	3-(3)	
15	222	23 左	「2節問題 (P. 171)」の12のヒントの 「区間[0, 1]で積分する。」 他に、右段15-16行「3節問題 (P. 190) 」の20のヒントの「区間[-r, r]で積分 する」	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく分からない。)	3-(3)	
16	223	5 右	「巻末 見方・考え方」の問1のヒント の「(P. 206)」	誤りである。	3-(1)	
17	224	24 右	「3章 微分の応用 (P. 212)」の6の解 答の「下の図」	生徒にとって理解し難い表現である。 (どの図を指すのか分からない。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-131		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学Ⅲ	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	11	15	関数 $y = k/x$ のグラフについては、次のことがいえる。	生徒にとって理解し難い表現である。 (16-20行との対応が分からない。)	3-(3)	
2	16	4	グラフをy軸方向に $\sqrt{2}$ 倍に拡大他に、102ページ4行「円 $x^2+y^2=a^2$ をy軸方向に b/a 倍した曲線」	不正確である。 (何を基準にしているのか分からない。)	3-(1)	
3	20	24	$y=x^2$ の逆関数は、定義域を制限する必要がある。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (逆関数の定義域について制限する必要があると誤解するおそれがある。)	3-(3)	
4	56	3 - 6	考察1-3 右の図の $\sin \theta$, $\tan \theta$, 扇形OABの弧の長さの大小関係を調べてみよう。 $> \theta$ と円の半径を用いて、 $\triangle OAB$, $\triangle OAT$, 扇形OABの面積をそれぞれ表してみよう。	生徒にとって理解し難い考察である。 (どのような設定のもとで考えているのか分からない。)	3-(3)	
5	61	6	$\lim_{x \rightarrow -\infty} f(x) = 0$	生徒にとって理解し難い表現である。 (なぜ「 $x \rightarrow -\infty$ 」を考えるのか分からない。)	3-(3)	
6	69	9	④ 接線の傾きが正のときは点 $(\pi/6, d)$ を、負のときは点 $(\pi/6, -d)$ をとる	生徒にとって理解し難い表現である。 (なぜ「接線の傾きが正のとき」を考えるのか分からない。)	3-(3)	
7	69	11 - 12	□3 関数 $y = \sin x$ や $y = \sqrt{x}$ などの導関数についても、グラフをもとに予想してみよう。	生徒にとって理解し難い問題である。 (どのグラフをもとに予想するのか分からない。)	3-(3)	
8	73	11	性質[2] 他に、17行「性質[2], [3]」、18行「性質[1]」	生徒にとって理解し難い表現である。 (性質が何を表しているのか分からない。)	3-(3)	
9	105	6 - 7	半径OPがx軸の正の向きとなる角をtとすれば	生徒にとって理解し難い表現である。 (tがどのような角か分からない。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-131		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学Ⅲ	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
10	108	9	グラフ上の接線	生徒にとって理解し難い表現である。 (「グラフ上の接線」が何か分からない。)	3-(3)	
11	114	11 - 12	Set Upの①, ②のグラフは, どちらも 区間 $x>1$ で $f'(x)>0$ である。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「グラフ」と「 $f'(x)$ 」の関係が分からない。)	3-(3)	
12	116	5 - 6	$x>e$ で曲線 $y=(\log x)^2$ は下に凸で増加 である。	誤りである。	3-(1)	
13	126	4	t秒後	生徒にとって理解し難い表現である。 (いつから「t秒後」なのか分からない。)	3-(3)	
14	127	1 - 2	前ページのSet Upのボールの投げ上げ について, 時刻tにおける速度を求め てみよう。	生徒にとって理解し難い表現である。 (Set Upの「t秒後」と「時刻t」との関係が分から ない。)	3-(3)	
15	129	6 - 8	円 $x^2+y^2=r^2$ 上を運動する点Pの, 時 刻tにおける座標が $x=r \cos t$, $y=r$ $\sin t$ で表される。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (常にこのように表されると誤解するおそれがある 。)	3-(3)	
16	185	6	$y=b+\sqrt{r^2-x^2}$ と $y=b-\sqrt{r^2-x^2}$ の曲線	不正確である。 (式と図形を混同している。)	3-(1)	
17	188	1	アステロイド	生徒にとって理解し難い表現である。 (アステロイドが何なのか分からない。)	3-(3)	
18	201	13	各回の買い物は独立である	生徒にとって理解し難い表現である。 (どのような意味で独立なのか分からない。)	3-(3)	
19	203	1	xyz空間	生徒にとって理解し難い用語である。 (どのような空間なのか分からない。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-132		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学Ⅲ	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	□3	6	準線は直線 $y=-p$	誤りである。	3-(1)	
2	3	10 右	索引……208	誤りである。	3-(1)	
3	33	5	第n項までの部分 他に、14行「第n項までの部分」	生徒にとって理解し難い表現である。 (部分和が第何項からの和なのか分からない。)	3-(3)	
4	56	16	一般に、次のことがいえる。	生徒にとって理解し難い表現である。 (どのような意味で「いえる」を用いているのか分からない。)	3-(3)	
5	64	4	n次関数 他に、69ページ11行「n次関数」	生徒にとって理解し難い用語である。 (説明がないので分からない。)	3-(3)	
6	94	18 - 19	$g(x)$ を $f(0)$, $f'(0)$, $f''(0)$ で表してみよう。	生徒にとって理解し難い問題である。 (表し方が無数に存在するため、どのように表せばよいか分からない。)	3-(3)	
7	193	図	6-9行右の図	生徒にとって理解し難い図である。 (本文における x_1 との対応が分からない。)	3-(3)	
8	194 - 195		課題学習 回転体の曲面の面積	学習指導要領に示す内容と客観的に区別されておらず、また、発展的な学習内容であることが明示されていない。 (一般的な回転体の表面積の学習)	2-(17)	
9	207	1 右	p. 254 章末問題A	誤りである。 (254ページはない。)	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-133		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学Ⅲ	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	62	21	$a_n = -(1/2)^n + 2$	誤りである。	3-(1)	
2	157	図	練習13の図	生徒にとって理解し難い図である。 (どこに目盛りが対応しているのか分からない。)	3-(3)	
3	188	12	移動するのに掛かる時間をtとする	生徒にとって理解し難い表現である。 (「t」の単位が何か分からない。)	3-(3)	
4	190	3	床と水平 ほか8行の「床と水平」	生徒にとって理解し難い表現である。 (「床」と「水平」の関係が分からない。)	3-(3)	
5	192	14 右	「2節 CHECK…p.38」の□7(1), (2)の 解答	誤りである。	3-(1)	
6	193	17 左	「章末問題A…p.60」の□1(1)の解答	誤りである。	3-(1)	
7	194	13 左	「2節 CHECK…p.89」の□7(1)の解答	不正確である。	3-(1)	
8	196	6 - 7 右	「章末問題A…p.125」の□4の解答	誤りである。	3-(1)	
9	196	18 右	「章末問題B…p.126」の□9(2)の解答	誤りである。	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-134		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学Ⅲ	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	70		思考力を養う 逆三角関数 課題学習	発展的な学習内容であることが明示されていない。 (逆三角関数の学習)	2-(17)	
2	120	10	速度 v^{\rightarrow} の大きさ	生徒にとって理解し難い表現である。 (「大きさ」が何か分からない。)	3-(3)	
3	121	18	加速度 α^{\rightarrow} の向き	生徒にとって理解し難い表現である。 (「向き」が何か分からない。)	3-(3)	
4	128		思考力を養う 利益が最大になるのは? 課題学習	学習指導要領に示す内容に照らして、扱いが不適切である。 (内容〔課題学習〕の「生徒の主体的な学習を促し」に照らして、扱いが不適切である。)	2-(1)	
5	188 - 189		思考力をみかく フラクタル図形 発展 (数学C) 課題学習	発展的な学習内容には該当しない。	2-(15)	
6	189	1	複素数平面	数学C(2)「平面上の曲線と複素数平面」の内容を関連付けて扱っていることが明示されていない。	固有 1-(2)	
7	191	13	閉区間などで連続な関数	生徒にとって理解し難い表現である。 (「など」の意味が分からない。)	3-(3)	
8	195	16 - 25	■3 オイラーの公式とオイラーの等式 (第3章 微分法) 発展 他に、196ページ「■4 ロピタルの定理 (第2章 関数とその極限)(第3章 微分法) 発展」	学習指導要領に示す内容と客観的に区別されていない。	2-(17)	
9	199	27 左	「章末問題(69ページ)」の3.(2)(3)の ヒントの「 $\sin x, \cos x, x$ のみの式 に変形する。」	生徒にとって理解し難い表現である。 (「 x のみの式」の意味が分からない。)	3-(3)	
10	205	13 左	級数(p.19)	誤りである。 (19ページに単独の用語として「級数」はない。)	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-135		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学Ⅲ	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	1	2	氷は 0.197 g/cm^3	誤りである。	3-(1)	
2	28	7	□の長さの和は1	生徒にとって理解し難い表現である。 (どこまでの長さの和のことか分からない。)	3-(3)	
3	31	2	多角形 ほか4行, 9行, 14行, 15行, 16行 (2箇所), 18行, 19行, 20行, 21行	生徒にとって理解し難い表現である。 (どのような多角形を考えているのか分からない。)	3-(3)	
4	93	2 - 4	この曲線は, 原点を中心とする半径aの円を, y軸方向にb/a倍したものになっている。	不正確である。 (何を基準にしているのか分からない。)	3-(1)	
5	112	10	速度 \vec{v} の大きさ $\sqrt{(dx/dt)^2 + (dy/dt)^2}$	生徒にとって理解し難い表現である。 (「速度 \vec{v} の大きさ」について説明がないので分からない。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-136		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学Ⅲ	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	I	3 右	1 微分可能性と連続 68	相互に矛盾している。 (68ページの表題と異なる。)	3-(1)	
2	29	4 - 7	小学校では、半径rの円の面積Sを求める公式 $S=\pi r^2$ を学んだ。	誤りである。	3-(1)	
3	34	21	関数 $y^2=2x$	生徒にとって理解し難い表現である。 (どのような関数なのか分からない。)	3-(3)	
4	47	3	45ページの極限値の性質□3	生徒にとって理解し難い表現である。 (「極限値の性質□3」が何を指すのか分からない。)	3-(3)	
5	89	20 - 23	探究4 ほか186ページ1～16行「探究4」, 「例」及び「問」	学習指導要領に示す内容と客観的に区別されておらず、また、発展的な学習内容であることが明示されていない。 (ロピタルの定理の学習)	2-(17)	
6	120	11	□4の「p. 91, 93」	生徒にとって理解し難いページである。 (93ページの「法線」との関係が分からない。)	3-(3)	
7	176	12 - 13	174ページの例題1と同様に考えると	生徒にとって理解し難い表現である。 (174ページの内容は発展的な学習内容であるため全ての生徒が学習しているとは限らないので、なぜ例題1と同様に考えられるのか分からない。)	3-(3)	
8	176	13	微分方程式①の解は ほか25行「微分方程式①の解は」	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がないので分からない。)	3-(3)	
9	206	12 右	「第2節 節末問題(151ページ)」の□3の解答のaの値	誤りである。	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-137		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学Ⅲ	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	87	4	60ページで学んだ	誤りである。 (60ページでは学んでいない。)	3-(1)	
2	97	8 - 10	数学Ⅰでは、2次関数のグラフとして放物線 $x^2=4py$ を学んだ。	生徒にとって理解し難い表現である。 (数学Ⅰではこのような放物線の方程式を学んでいないので分からない。)	3-(3)	
3	102	17	$P(X_n=2)$	生徒にとって理解し難い記号である。 (記号「 $P(x_n=2)$ 」の意味が分からない。)	3-(3)	
4	205	18 - 22	演習問題B「発展 11」	数学C(2)「平面上の曲線と複素数平面」の内容を関連付けて扱っていることが明示されていない。	固有 1-(2)	
5	205	18 - 22	演習問題B「発展 11」	発展的な学習内容には該当しない。	2-(15)	
6	209	2	第4章「微分法とその応用」	相互に矛盾している。 (第4章の表題と異なる。)	3-(1)	
7	221	17	s_1, s_2 を用いて	生徒にとって理解し難い表現である。 (s_1, s_2 がどのような値なのか分からない。)	3-(3)	
8	228		発展 数学と電気回路	発展的な学習内容には該当しない。	2-(15)	
9	228	16	微分方程式～の解 他に、23行「初期条件」、24行「微分方程式の解」	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がないので分からない。)	3-(3)	
10	243	24 - 25 中	有向成分 (ベクトル)209	誤りである。	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-138		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学Ⅲ	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	10	11 - 12	漸近線は、次の2直線である。 $x=-1, y=2$	不正確である。 (式と図形を混同している。)	3-(1)	
2	38	18	例題7の範囲において	生徒にとって理解し難い表現である。 (「範囲」が何か分からない。)	3-(3)	
3	220	6 - 8	数列 $\{a_n\}, \{b_n\}$ について、 $\lim a_n = \infty, \lim b_n = \infty$ とする。このとき、 $\lim(a_n - b_n)$ や $\lim a_n/b_n$ のような形をした極限、すなわち、形式的には $\infty - \infty, \infty/\infty, \infty \times 0, 0/0$ などのよう	生徒にとって理解し難い表現である。 (なぜ「すなわち」で結ばれるのか分からない。)	3-(3)	
			にかける極限を、不定形の極限という。			
4	222	12 中	有向成分……206	誤りである。	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-139		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学Ⅲ	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	190	1 - 20	「※2は数学Aで学習する「場合の数と確率」の内容を用いる問題である。」及び「総合問題2」	数学A(2)「場合の数と確率」の内容を関連付けて扱っていることが明示されていない。 (扱い方が明示されていない。)	固有 1-(2)	
2	196	図	7-10行右の図における「3」及び「4」	生徒にとって理解し難い数字である。 (何を表すのか分からない。)	3-(3)	
3	205	23 - 24 左	■章末問題(p.23)の4の別解(1)	不正確である。 (定義域)	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-140		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学Ⅲ	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	98	16	$x=2t, y=t^2-1$	組織が適切でない。 (このように表された関数の考察は、96-97ページでなされている。)	2-(12)	
2	111	3	極値を求めよ	脱字である。 (句点がない。)	3-(2)	
3	126	23	速度 \vec{v} はベクトル OP に垂直である。	生徒にとって理解し難い表現である。 (2つのベクトルが垂直であることの意味が分からない。)	3-(3)	
4	139	10	$dx= g'(x) dt$	誤りである。	3-(1)	
5	193	1 - 2	課題1のように接線を引いていくと、接線とx軸の交点は、グラフCとx軸の交点に近づくことがわかります。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (いつもこのように近づくかのように誤解するおそれがある。)	3-(3)	
6	203	6 右	練習39のヒントにおける $\sqrt{\quad}$ の中の「 $1+9/4 x^2$ 」	誤りである。	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-141		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学Ⅲ	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	10	15 - 16	漸近線は、次の2直線である。 $x=-1, y=2$	不正確である。 (式と図形を混同している。)	3-(1)	
2	28	19	無限級数において、 n を限りなく大きくすることを考えよう。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「 n 」が何か分からない。)	3-(3)	
3	52	17 - 19	注意 この逆は成り立たない。 すなわち、分母と分子がともに0に収束する関数が一定の値に収束するとは限らない。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「この逆」をどのように考えているのか分からない。)	3-(3)	
4	57	20	$x \rightarrow a$ のとき	誤りである。	3-(1)	
5	113		Column eと確率	数学A(2)「場合の数と確率」の内容を関連付けて扱っていることが明示されていない。	固有 1-(2)	
6	116	10	79ページで学んだように	誤りである。	3-(1)	
7	124	24	練習8(2)	生徒にとって理解し難い表現である。 (他の関数の表現と異なる理由が分からない。)	3-(3)	
8	224 - 225		発展 課題学習4 重心の位置	発展的な学習内容には該当しない。	2-(15)	
9	243	21 右	発散(数列)……29	誤りである。 (29ページに数列の「発散」はない。)	3-(1)	
10	244	28 中	$\lim_{x \rightarrow \infty} f(x) = \infty$ ……57	誤りである。 (57ページにこれらの記号はない。)	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-142		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学B	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	3	14 右	活用 世論調査の読み方	相互に矛盾している。 (106ページの表題と異なる。)	3-(1)	
2	53	11	要素	生徒にとって理解し難い表現である。 (52ページ19行の「個体」との使い分けが分からない。)	3-(3)	
3	54	グラフ	「30個のうち白球がn個である確率」 のグラフ	不正確である。 (15個の確率)	3-(1)	
4	69	17	確率は $p_i p_j$	誤りである。	3-(1)	
5	101	4 - 5	$P(\bar{X}-100 /7.5/\sqrt{225}$ $\geq 4/7.5/\sqrt{225})$ $=P(Z \geq 2)$	誤りである。 (等式が成り立たない。)	3-(1)	
6	101	7	有意水準5%と比較すると	生徒にとって理解し難い表現である。 (どこで有意水準を5%と決めたのか分からない。)	3-(3)	
7	108	10 - 11	その地域の人口は一定期間ごとに2倍、 4倍、8倍、16倍、…のように増加する	生徒にとって理解し難い表現である。 (「一定期間ごと」の説明がないので、何の4倍、8倍、16倍、…となるのか分からない。)	3-(3)	
8	111	13	1章「数列」で学んだ ほか124ページ9～10行の「1章「数列」 」で学習した」	生徒にとって理解し難い表現である。 (すべての生徒が「1章「数列」」を学んでいるわけではない。)	3-(3)	
9	115	23	$0 \leq h \leq 48$ の範囲で	生徒にとって理解し難い表現である。 (なぜ高さであるhの範囲をこのように考えるのか分からない。)	3-(3)	
10	118	13	$Y=f(x)$ のグラフ	生徒にとって理解し難い表現である。 (117ページ22行の「f(x)」との関係が分からない。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-142		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学B	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
11	121	14	求める直線を $y=ax+b$ として考える。	不正確である。 (式と図形を混同している。)	3-(1)	
12	132 - 133		発展 次元解析	発展的な学習内容には該当しない。	2-(15)	
13	142	28 右	「2章 統計的な推測 3節 問題(P.85)」の13(1)の解答の「 $n=500$ のとき $P=0.99730$ 」	誤りである。	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-143		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学B	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	20	6 - 7	n 回目のバウンドで進む距離を数列 { a_n } とすると	生徒にとって理解し難い表現である。 (「n 回目のバウンドで進む距離」は1つだけの数値であるが、それを数列とすることが分からない。)	3-(3)	
2	86	12	標準正規分布 $N(0, 1)$ に従う事象 他に、13行「一般の正規分布 $N(m, \sigma^2)$ に従う事象」、15, 16行「確率変数 X が正規分布 $N(m, \sigma^2)$ に従う事象」	生徒にとって理解し難い表現である。 (正規分布に従う事象がどのような事象か分からない。)	3-(3)	
3	86	21 - 22	問 4	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (何を説明すればよいか分からず、解答できないという支障を生ずるおそれがある。)	2-(1)	
4	90	16	ここで、 $Z=(X-m)/\sigma$ の分布は標準正規分布 $N(0, 1)$ に従う	生徒にとって理解し難い表現である。 (分布は分布に従うとはどういうことか分からない。)	3-(3)	
5	96	16 - 17	一般に、母集団分布がどんな分布であっても、 X -の分布のグラフは、 X -と同じ平均と分散をもつ正規分布曲線に近付いてくる。	生徒にとって理解し難い表現である。 (1つの X -の分布のグラフが、何もしなくとも正規分布曲線に近づくことが分からない。)	3-(3)	
6	110	22	読書をする高校生 他に、111ページ1, 2行, 16行	生徒にとって理解し難い表現である。 (どのような高校生を指すのか分からない。)	3-(3)	
7	114	脚注	正式名称はCOVID-19。	不正確である。 (新型コロナウイルスの名称ではない。)	3-(1)	
8	122	7 - 9	この直線は各データの y 座標について、その偏差(距離)の2乗の和が最も小さくなるように定める。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「その偏差(距離)」が何と何の差なのか分からない。)	3-(3)	
9	124	グラフ	13行下のグラフ	不正確である。 (点(33, 1264, 4), 点(33, 1020) の位置)	3-(1)	
10	133	8	線EF	生徒にとって理解し難い表現である。 (どのような線か分からない。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-143		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学B	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
11	142	5	「 μ g/mL」における「 μ 」	表記の基準によっていない。 (国際単位系)	3-(4)	
12	145	18	確率 $P(Z \geq \square \kappa) = \square \kappa$ だ。	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (確率の求め方が103ページから106ページで学習した仮説検定の方法と異なるため、ここでの仮説検定が理解できないという支障を生ずるおそれがある。)	2-(1)	
13	147	20 - 22	母平均 m に対して、帰無仮説「 $m=m_0$ 」を設定したとき、対立仮説は (1) $m \neq m_0$, (2) $m > m_0$ または $m < m_0$ などが設定できる。	生徒にとって理解し難い表現である。 (2)の対立仮説がどのような対立仮説か分からない。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-144		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学B	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	4	8 - 9	数学Ⅱで学習した分数式の加法と減法 （「書名入る」p. 15, 16） ほか10～11行の 「数学Ⅱで学習した等式の証明 （「書名入る」p. 38, 39）」	生徒が誤解するおそれのある表現である。 （全ての生徒が数学Ⅱで学習した「分数式の加法と減法」及び「等式の証明」が、特定の図書の対応するページであるかのように誤解するおそれがある。）	3-(3)	
2	31	側注	10～11行右の側注の「 $n=n-1$ を代入すると」	生徒にとって理解し難い表現である。 （書かれている等式の意味が分からない。）	3-(3)	
3	41	図	21～24行右の図	誤りである。	3-(1)	
4	63	グラフ	例5の右のグラフ	不正確である。 （X軸の目盛り）	3-(1)	
5	71	13	一般の正規分布を標準化してその確率を求めてみよう。	生徒にとって理解し難い表現である。 （分布を標準化するとはどういうことか分からない。）	3-(3)	
6	72	2	確率分布が正規分布に従う	生徒にとって理解し難い表現である。 （分布が分布に従うとはどういうことか分からない。）	3-(3)	
7	81	20 - 25	例2	生徒にとって理解し難い例である。 （母標準偏差の単位が示されていないので、母平均の区間推定についてどのように考えるのか分からない。）	3-(3)	
8	81	図	例2の右の図	生徒にとって理解し難い図である。 （「m」がこの位置にあることが分からない。）	3-(3)	
9	85	6 - 10	数学Ⅰでは、～対立する2つの仮説 H_1 , H_0 を立て、～どちらの仮説が正しいか判断することを学んだ。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 （仮説検定において、常に考える仮説のどちらかが必ず正しいと判断できると誤解するおそれがある。）	3-(3)	
10	99	グラフ	中グラフの表題「東京都2019年8月後半の気温」	不正確である。 （東京都全体の気温ではない。）	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-144		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学B	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
11	116	6 左	「Readiness Check」の□2の解答	誤りである。	3-(1)	
12	117	8 左	「2節 いろいろな数列」の問7の解答	誤りである。	3-(1)	
13	121	1 左	p.88 Level Up	誤りである。 (88ページに「Level Up」はない。)	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-145		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学B	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	42	18 - 22	章末問題B □11	学習指導要領に示す内容と客観的に区別されておらず、また、発展的な学習内容であることが明示されていない。 (連立漸化式で表された数列の一般項を求める問題)	2-(17)	
2	53	13	記号 Σ の性質を用いて変形してみよう。 ほか55ページ12行から13行への式変形	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (記号 Σ の性質についての説明がないので、変形が理解できないという支障を生ずるおそれがある。)	2-(1)	
3	59	10	したがって、2つの確率変数 X , Y に対して、次のことが成り立つ。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (「確率変数の和の期待値」が、指摘事項直前の説明のみで証明できるかのように誤解するおそれがある。)	3-(3)	
4	60	23	よって、2つの独立な確率変数 X , Y について、次のことが成り立つ。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (「独立な確率変数の積の期待値」が、指摘事項直前の説明のみで証明できるかのように誤解するおそれがある。)	3-(3)	
5	74	17 - 19	n の値が十分大きいとき $\sim N(0, 1)$ に従うことが知られている。 ほか87ページ16～18行の「 n が十分大きければ、 $\sim N(0, 1)$ に従うから」、 93ページ1～2行の「 n が十分大きければ、 $\sim N(0, 1)$ に従うから」	不正確である。 (75ページ2～3行のまとめの記述と合わない。)	3-(1)	
6	77	12	個体 母集団の構成要素	不正確である。 (4ページ「教科書のとびき」における13行の凡例に合わない。)	3-(1)	
7	100	7 - 8	この章では、金額の計算結果から小数点以下の端数を切り捨てることとする。	生徒にとって理解し難い表現である。 (どの時点の「計算結果」から端数を切り捨てるのか分からない。)	3-(3)	
8	102	18 - 20	18～20行で使われている数列で学習する、「初項」、「公比」、「項数」、「等比数列」、「 Σ 」 ほか109ページ5, 13行の「 Σ 」	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (これらの用語や記号の説明がないので、内容が理解できないという支障を生ずるおそれがある。)	2-(1)	
9	107	12 - 14	上の図の回帰直線は、 $\sim y=0.0161x-15.713$ となる。	不正確である。 (式と図形を混同している。)	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-145		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学B	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
10	115	15 左	「p.40 節末問題」の「Progress (2)」のヒントの「与式」	生徒にとって理解し難い表現である。 (「与式」が何を指しているのか分からない。)	3-(3)	
11	118	34 左	実現値…89	誤りである。 (89ページに「実現値」はない。)	3-(1)	
12	120 - □4		フィボナッチ数列 発展	学習指導要領に示す内容と客観的に区別されていない。	2-(17)	
13	120 - □4		フィボナッチ数列 発展	学習指導要領に示す内容の取扱いに照らして、扱いが不適切である。 (内容の取扱い(1)の「この科目は、内容の(1)から(3)までの中から適宜選択させるものとする。」に照らして、扱いが不適切である。)	2-(1)	
14	□5	2	78ページで学んだように	生徒にとって理解し難い表現である。 (すべての生徒が78ページを学んでいるわけではない。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-146		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学B	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	44	1 - 13	参考 整数の性質を利用した証明	学習指導要領に示す内容に照らして、扱いが不適切である。 (内容(1)のイの(ウ)の「他の証明方法と比較し多面的に考察すること。」に照らして、扱いが不適切である。)	2-(1)	
2	47	21 - 22	大きい方の目から小さい方の目を引くものとする。	生徒にとって理解し難い表現である。 (同じ目のときはどうするのか分からない。)	3-(3)	
3	93	5 - 10	仮説検定	生徒にとって理解し難い表現である。 (対立仮説がいつたてられたのか分からない。)	3-(3)	
4	101	7 - 24	例1	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (どのような単位系で考えているか分からず内容が理解できないという支障を生ずるおそれがある。)	2-(1)	
5	101	グラフ	例1の2つのグラフの横軸の単位「(km)」	不正確である。 (「km」は時速の単位ではない。)	3-(1)	
6	101	グラフ	例1の下のグラフ	不正確である。 (原点を通っていない。)	3-(1)	
7	103	グラフ	例2のグラフ	生徒が誤解するおそれのあるグラフである。 ($x=200$ で $y=101250$ の値をとるかのように誤解するおそれがある。)	3-(3)	
8	117	24 - 27	練習1(2), (3)	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (4日間で何回貸し出されているのか分からず解答できないという支障を生ずるおそれがある。)	2-(1)	
9	119 - 120	24 右 - 13左	「3節CHECK…p. 41」の□18の解答	生徒にとって理解し難い解答である。 (2重に仮定する意味が分からない。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-147		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学B	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	22	16 - 17	自然数の和 $S=1^2+2^2+3^2+\dots+n^2$	生徒にとって理解し難い表現である。 (4行の「自然数の2乗の和」との言葉の使い分けが分からない。)	3-(3)	
2	34 - 36	1 - 17	②数学的帰納法 ～数学的帰納法を用いて証明しなさい。	学習指導要領に示す内容に照らして、扱いが不適切である。 (内容(1)のイのウの「他の証明方法と比較し多面的に考察すること。」に照らして、扱いが不適切である。)	2-(1)	
3	64	21 - 22	母集団に含まれる個数 他に、22-23行「標本に含まれる個数」	生徒にとって理解し難い表現である。 (何の個数か分からない。)	3-(3)	
4	65	19 - 20	無作為標本	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく分からない。)	3-(3)	
5	66	22	標本平均の値の「26.1」と「26.3」	不正確である。 (5つの整数の平均の値としては得られない。)	3-(1)	
6	71	側注	21行横の側注「←標本を抽出して信頼区間を求めることを100回行えば、95回はmを含み、5回はmを含まないということである。」	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (必ず95回mを含むと誤解するおそれがある。)	3-(3)	
7	73	28	このさいころは正しく作られているといえるか。 他に、74ページ18-19行「このコインは、正しく作られているかどうか、有意水準を5%として判断しなさい。」	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (片側検定しか学習しておらず、どのように仮説検定を行えばよいか分からないという支障を生ずるおそれがある。)	2-(1)	
8	93	24	データx, yに相関関係があるとき、	生徒にとって理解し難い表現である。 (x, yがどのようなデータが分からない。)	3-(3)	
9	98	3 - 21	1 ヘロンの公式の証明 (p. 82)	数学Ⅱの内容を関連付けて扱っていることが明示されていない。	固有 1-(2)	
10	106	14 - 16 左	「Exercise エクササイズ (p. 53)」の ■考の解答における「X」	生徒にとって理解し難い記号である。 (説明がなく分からない。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-147		学校 高等学校		教科 数学		種目 数学B		学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準				
	ページ	行							
11	107	17 右	「3章 数学と社会生活 1節 図形と測定」の間3の解答	不正確である。 (単位がない。)	3-(1)				

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-148		学校 高等学校	教科 数学	種目 数学B	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準
	ページ	行			
1	61	24	2つの事象が独立ならば、そこから決まる確率変数も独立である。	生徒にとって理解し難い表現である。 (どのように確率変数を定めるのか分からない。)	3-(3)
2	74	1 - 2	身長がの分布が、～の正規分布に従うとする。	生徒にとって理解し難い表現である。 (分布が分布に従うとはどういうことか分からない。)	3-(3)
3	75	4 - 6	p=1/6のとき、n=10, 30, 50 に対するXの確率を表す折れ線グラフ	生徒にとって理解し難い表現である。 (確率変数Xの確率とは何か分からない。)	3-(3)
4	84	9 - 10	このように、母集団分布がどのような分布でも、標本の大きさを増やしていくと、	生徒にとって理解し難い表現である。 (それまでの記述では標本の大きさは20のままで増やしていない。)	3-(3)
5	90	15 - 26	【Column】母比率の推定	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (どのような設定なのか分からず内容が理解できないという支障を生ずるおそれがある。)	2-(1)
6	92	3 - 5	標本平均や標本比率について、帰無仮説を否定してもよいと考えられる値の範囲を、その範囲に値をとる確率 α をもとにして、あらかじめ定めておく必要がある。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「その範囲に値をとる確率 α 」とは何か分からない。)	3-(3)
7	96	5	$ X - m > 1.64 \times \sigma / \sqrt{n}$	生徒にとって理解し難い式である。 (どのような設定か分からない。)	3-(3)
8	96	16 - 18	X-の棄却域は、 $ X - 135 > 1.64 \times 7.2 / \sqrt{64} = 1.476$ を満たす範囲である。	生徒にとって理解し難い表現である。 (どうして絶対値記号があるのか分からない。)	3-(3)
9	98	5	上限から下限	生徒にとって理解し難い表現である。 (「上限」、「下限」の意味が分からない。)	3-(3)
10	112	23	この3つのデータの回帰直線は、 $y = 1/2x + 5/2$ である。	不正確である。 (式と図形を混同している。)	3-(1)

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-148		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学B	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
11	124	8	$c-d \equiv ml'$	不正確である。 (合同記号)	3-(1)	
12	124	15 - 16	$19^7 \equiv (19-22)^7 \equiv (-3)^7 \equiv \sim$ $\equiv 35 \equiv 13$	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (記号「 \equiv 」の連続使用についての説明がないため、何を表しているのか理解できないという支障を生ずるおそれがある。)	2-(1)	
13	裏見返 v	15 - 17 右	発展 他に、裏見返しviページの下の「3. 数学と社会生活」の囲みの左下の「合同式 発展」及び右の「合同式の性質 発展」	学習指導要領に示す内容と客観的に区別されていない。	2-(17)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-149		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学B	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	3	17 - 18	126, 127ページ「整数の性質とRSA暗号」は、数学Bの学習指導要領に示されていない内容ですので、発展がついています。	発展的な学習内容であることが明示されていない。 (選択的に学習することが示されていない。)	2-(17)	
2	4	18	Coulmn	誤記である。	3-(2)	
3	4	22 - 23	インターネット接続に必要な費用や通信費など	誤記である。	3-(2)	
4	41	22 - 23	例題15の等式は、23, 24ページで学んだことを用いると、次のようにも示せる。	不正確である。 (次で示されている内容には、ここで示しているページ以外のページで学んだ内容も使われている。)	3-(1)	
5	66	9	「 $V(X_k)$ 」を求める式における「 $E(X)$ 」	誤りである。	3-(1)	
6	68	表	二項分布の確率を表す表の $n=60$, $P5$ の確率「0.032」	誤りである。	3-(1)	
7	81	13	$X=584.6$	誤りである。	3-(1)	
8	83	21 - 22	抽出実験で得られた標本平均 \bar{X} の標準偏差も、母標準偏差に比較的近い値になることがわかる。	誤りである。	3-(1)	
9	84	グラフ	11行下の「 $n=16$ 」のグラフにおける「 $N(2.2, 1.17/16)$ 」 他に、12行「 $N(2.2, 1.17/n)$ 」	誤りである。	3-(1)	
10	87	図	8行横の図における「信頼度95%の信頼区間」	生徒にとって理解し難い図である。 (8行から10行の「 X 」は変数であるから、信頼区間は X の値によって変化する」とあるため、何を表しているのか分からない。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-149		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学B	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
11	93	18 - 19	有意水準5%の棄却域とは、①を満たす範囲のことである。	生徒にとって理解し難い表現である。 (棄却域は91ページで事象のこととして定義されているため、どのような事象を示すのか分からない。)	3-(3)	
12	96	3 - 7	ある店では、ポテトの重さが135gであると公表している。～このポテトの重さの平均値は135g以上といえるか。有意水準5%で検定せよ。～標準偏差が7.2gの正規分布に従うものとする。	生徒にとって理解し難いである。 (片側検定の問題として)	3-(3)	
13	96	15	「重さの平均値が135g以上かどうか」を知りたいので、片側検定を行う。	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (「片側検定」の意味は別の「math探」で説明されており、省略している場合もあるため、「片側検定」の意味が分からず、内容が理解できないという支障を生ずるおそれがある。)	2-(1)	
14	110	16	$=1.206t+52.02$	誤りである。 (「52.02」)	3-(1)	
15	112	8	① 各選手の順位を上位から並べる。	生徒にとって理解し難い表現である。 (どのように並べるのか分からない。)	3-(3)	
16	115	9	②以降の対戦でAが優勝する確率は、PA	生徒にとって理解し難い表現である。 (なぜ、確率がPAとなるのか分からない。)	3-(3)	
17	124	18 - 20	コンピュータを使って、「近似直線」を求めると、 $y=1.34x-0.47\cdots$ ①を得られる。 他に、125ページ15, 16行「近似直線は $y=0.30x+30.02$ である。」	不正確である。 (式と図形を混同している。)	3-(1)	
18	126	3	数学A第3章を既習とします。	生徒にとって理解し難い表現である。 (数学Aの第3章がどのような学習内容か分からない。)	3-(3)	
19	126 - 127	4 - 26	○整数の性質とRSA暗号 (p. 118～120) 発展	学習指導要領に示す内容と客観的に区別されていない。	2-(17)	
20	126	8	2つの整数a, bを自然数mで割ったときの余り 他に、22行「互いに素」、127ページ17, 18行「eとbが互いに素であるとき、不定方程式 $ef+bk=1$ を満たす整数fと	数学A「数学と人間の活動」を関連付けて扱っていることが明示されていない。	固有 1-(2)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-149		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学B	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
			kが存在する。」			
21	127	10	$1^6 \equiv 2^6 \equiv \dots \equiv 1$	生徒にとって理解し難い式である。 (126ページ12行で説明されている記号の使い方と異なるため、どのような式を表しているのか分からない。)	3-(3)	
22	128	1	近似曲線(p. 124~125)	生徒にとって理解し難い表題である。 (「p. 124~125」及び128, 129ページではすべて「近似直線」を扱っており、表題との関連が分からない。)	3-(3)	
23	128	2	ある2つの変数x, yについて、相関が強い場合を考えよう。	生徒にとって理解し難い表現である。 (変数x, yがどのような変数か分からない。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-150		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学B	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	42	18 - 22	□7	数学A「場合の数と確率」を関連付けて扱っていることが明示されていない。	固有 1-(2)	
2	45 - 98		第2章統計的な推測	数学A「場合の数と確率」を関連付けて扱っていることが明示されていない。	固有 1-(2)	
3	48	10	記号「 Σ 」	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (記号「 Σ 」について説明がなく、意味が理解できないという支障を生ずるおそれがある。)	2-(1)	
4	57	17 - 19	2つの確率変数 X , Y がともに離散型確率変数の場合、任意の実数 a , b に対して、2つの事象 $X=a$ と $X=b$ が独立であるとき、確率変数 X , Y は独立であるという。	生徒にとって理解し難い表現である。 (20行から24行におけるまとめと比較して、確率変数のとる値の違いが分からない。)	3-(3)	
5	57	18 - 19	2つの事象 $X=a$ と $X=b$ が独立であるとき、確率変数 X , Y は独立であるという。	生徒にとって理解し難い表現である。 (事象 $X=a$ と $X=b$ の独立と確率変数 X , Y の独立の関係が分からない。)	3-(3)	
6	80	19 - 20	よって、上の抽出実験で得られた X -の実現値200個の平均と標準偏差は、それぞれ母平均と母標準偏差に比較的近いことがわかる。	誤りである。	3-(1)	
7	86	9 - 10	このとき、標本平均 \bar{X} -は、標本の中で性質 A をもつ要素の割合、すなわち標本比率を表す。	生徒にとって理解し難い表現である。 (標本比率の説明がなく、文の意味が分からない。)	3-(3)	
8	86	12 - 13	「 S^2 」の計算における3つの「 $(X^2)-$ 」	誤りである。	3-(1)	
9	87 - 91	1 - 26	□3 仮説検定～帰無仮説 H_0 は棄却されない。	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (どのような対立仮説のもとで仮説検定を行おうとしているのか分からず、仮説検定について理解できないという支障を生ずるおそれがある。)	2-(1)	
10	92	2 - 4	帰無仮説 H_0 の下で、確率が有意水準 α より小さくなるような実現値を与える標本の集合を棄却域という。	生徒にとって理解し難い表現である。 (右の図で示されている「棄却域」は標本の集合を表しているとは考えられず、右の図における「棄却域」との対応が分からない。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-150		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学B	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
11	94 - 95		□ 4身のまわりの問題への活用	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (2013年, 2019年の2つのデータに対して, どのように仮説検定の考え方を適用しているのか分からず, 学習内容が理解できないという支障を生ずるおそれがある。)	2-(1)	
12	102	8 - 10	男子と女子の記録の回帰直線は, それぞれ次のようになる。男子: $y = -0.0098x + 29.38$ 女子: $y = -0.0124x + 35.69$ 他に, 103ページ18行「下のような	不正確である。 (式と図形を混同している。)	3-(1)	
			$y = 0.0102x^2 + 0.0803x + 2.7476$ という回帰曲線」			
13	103	6 - 7	停止距離とは, 運転手が止まろうと思ってブレーキを踏んでから車が止まるまでに移動する距離である。	不正確である。 (移動距離計測の最初の時点)	3-(1)	
14	103	22 - 23	多項式関数	生徒にとって理解し難い用語である。 (説明がなくどのような関数か分からない。)	3-(3)	
15	114	5	記号「 Σ 」	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (記号「 Σ 」について説明がなく, 意味が理解できないという支障を生ずるおそれがある。)	2-(1)	
16	114	15	110ページの公開鍵暗号を用いて	生徒にとって理解し難い表現である。 (110ページでの公開鍵暗号の設定の何をどこまで用いるのか分からない。)	3-(3)	
17	119	24 - 28	多様性を養おう 発展	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (3項間の漸化式をどのような方法で求めることができるか分からず, 解答できないという支障を生ずるおそれがある。)	2-(1)	
18	129	15 - 17 左	確率変数Xが二項分布 $B(n, p)$ に従うとき $Z = (X - np) / \sqrt{npq}$ は, 標準正規分布 $N(0, 1)$ に従う。	不正確である。 (p. 73のまとめと異なる。)	3-(1)	
19	129	2 右	母平均 m , 母標準偏差 σ の標本平均 X -	生徒にとって理解し難い表現である。 (どのような標本平均か分からない。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-150		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学B	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
20	138	31 左	□12の解答における「(1), (2)与えられた方程式を①とおき」	不正確である。 (与えられているのは, 方程式ではない。)	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-151		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学B	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	47 - 48		研究 自然数や整数に関わる命題のいろいろな証明	学習指導要領に示す内容に照らして、扱いが不適切である。 (内容(1)のイの(ウ)の「他の証明方法と比較し多面的に考察すること。」に照らして、扱いが不適切である。)	2-(1)	
2	47	7	整数 n を、3で割ったときの余りで分類する	生徒にとって理解し難い表現である。 (脚注の【補足】への対応がないため、分類の仕方が分からない。)	3-(3)	
3	48	4 - 5	整数をある正の整数で割ったときの余りで分類して考える	生徒にとって理解し難い表現である。 (一般の整数を正の整数で割ったときの余りをどうするのか説明がないので分からない。)	3-(3)	
4	53	14 - 15	確率変数の和や積の期待値、分散を求めることができる。 ほか67ページ2～3行の「ここでは、確率変数の積について、その期待値、分散を求めてみよう。」	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (積の分散も求めることができると誤解するおそれがある。)	3-(3)	
5	84	6	X	生徒にとって理解し難い記号である。 (説明がないので分からない。)	3-(3)	
6	90	表	例11の表における「X」	生徒にとって理解し難い記号である。 (説明がないので分からない。)	3-(3)	
7	125	8	このことを仮定に反映して	生徒にとって理解し難い表現である。 (何を仮定に反映するのか分からない。)	3-(3)	
8	125	17 - 22	練習12	生徒にとって理解し難い練習である。 (どの設定のもとで練習を解くのか分からない。)	3-(3)	
9	125	24	上限	生徒にとって理解し難い表現である。 (「上限」の意味が分からない。)	3-(3)	
10	140	11 - 12	東京都の月ごとの平均気温 ほか141ページ24行練習22の「東京都において、平均気温が 22.0°C である月」	不正確である。 (東京都全体の平均気温ではない。)	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-151		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学B	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
11	143	24	【補足】記号 $\sum_{k=1}^n$ については、第1章「数列」の23ページを参照。	学習上の支障を生ずるおそれがある。 （「参考」における計算では、23ページに示されている内容以外も使うので、計算過程が理解できないという学習上の支障を生ずるおそれがある。）	2-(1)	
12	144	13	時速 (km) ほか17行の「時速x (km)」, 145ページの3つのグラフの横軸の「時速 (km)」	不正確である。 （「km」は時速の単位ではない。）	3-(1)	
13	後1	9	個体	生徒にとって理解し難い表現である。 （説明がないので分からない。）	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-152		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学B	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	47		研究 自然数に関する命題のいろいろな証明	学習指導要領に示す内容に照らして、扱いが不適切である。 (内容(1)のイの(ウ)の「他の証明方法と比較し多面的に考察すること。」に照らして、扱いが不適切である。)	2-(1)	
2	80	14	$Z = X - m / \sigma$ を考える。 他に、16行における「X」	生徒にとって理解し難い記号である。 (「X」について説明がなく分からない。)	3-(3)	
3	81	側注	13行横の側注「70ページ」	生徒にとって理解し難いページである。 (関連性が分からない。)	3-(3)	
4	89	表	例20の表における「X」	生徒にとって理解し難い記号である。 (説明がなく分からない。)	3-(3)	
5	101	10	前ページと上の例では	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (例が二つあるかのように誤解するおそれがある。)	3-(3)	
6	121	8	このことを仮定に反映して	生徒にとって理解し難い表現である。 (何を仮定に反映するのか分からない。)	3-(3)	
7	121	17 - 22	練習12	生徒にとって理解し難い練習である。 (どの設定のもとで練習を解くのか分からない。)	3-(3)	
8	121	24	上限	生徒にとって理解し難い表現である。 (「上限」の意味が分からない。)	3-(3)	
9	134	8 - 9	東京都の月ごとの平均気温 他に、135ページ24行「東京都において、平均気温が22.0℃である月」	不正確である。 (東京都全体の平均気温ではない。)	3-(1)	
10	137	24	<補足> 記号 $\sum_{n_k=1}$ については、第1章「数列」の25ページを参照。	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (「参考」における計算では、25ページに示されている内容以外も使うので、計算過程が理解できないという学習上の支障を生ずるおそれがある。)	2-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-152		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学B	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
11	138	11	時速(km) 他に, 15行「時速x(km)」, 139ページの3つのグラフの横軸の「時 速(km)」	不正確である。 (「km」は時速の単位ではない。)	3-(1)	
12	144	24 - 26 左	問題7の解答	生徒にとって理解し難いヒントである。 (どうして1を入れないのか分からない。)	3-(3)	
13	146	26 - 27 左	「■問題 (p. 106)」の問題9の解答	不正確である。 (小問に対応していない。)	3-(1)	
14	147	25 右	「■総合問題 (p. 142, 143)」の3(2)の 解答の2つ目の答え「0.0174」	不正確である。	3-(1)	
15	151	12 中	m, σ ……147	誤りである。	3-(1)	
16	後1	5	(→全数調査と標本調査 88, 89ページ)。	生徒にとって理解し難いページである。 (88, 89ページとの関連性が分からない。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-153		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学B	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	44		研究 自然数に関する命題のいろいろな証明	学習指導要領に示す内容に照らして、扱いが不適切である。 (内容(1)のイの(ウ)の「他の証明方法と比較し多面的に考察すること。」に照らして、扱いが不適切である。)	2-(1)	
2	76	14	$Z=X-m/\sigma$ を考える。 他に、16行における「X」	生徒にとって理解し難い記号である。 (「X」について説明がなく分からない。)	3-(3)	
3	84	表	例18の表における「X」	生徒にとって理解し難い記号である。 (説明がなく分からない。)	3-(3)	
4	95	9	前ページと上の例では	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (例が二つあるかのように誤解するおそれがある。)	3-(3)	
5	105	21	上限と下限 他に、25行「上限と下限」、113ページ23行「予算の上限」	生徒にとって理解し難い用語である。 (「上限」、「下限」の意味が分からない。)	3-(3)	
6	128	10 - 11	東京都の月ごとの平均気温 他に、129ページ21行「東京都において、平均気温が22.0℃である月」	不正確である。 (東京都全体の平均気温ではない。)	3-(1)	
7	130	13	時速(km) 他に、131ページの3つのグラフの横軸の「時速(km)」	不正確である。 (「km」は時速の単位ではない。)	3-(1)	
8	130	17	時速xと制動距離yの関係について考えてみよう。	生徒にとって理解し難い表現である。 (時速や制動距離をどのような単位のもとで考えるのか分からない。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-154		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学B	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	20	9 - 10	また、 $\sum_{k=5}^{10} a_k$ を、～すべての項の和～を表す。	誤記である。	3-(2)	
2	54	2	1つの操作をくり返し行う試行	生徒にとって理解し難い表現である。 (「操作」と「試行」の関係が分からない。)	3-(3)	
3	66	10	X	生徒にとって理解し難い表現である。 (解答において「X」の説明がない。)	3-(3)	
4	84	5	推定精度	生徒にとって理解し難い表現である。 (「推定精度」が何かが分からない。)	3-(3)	
5	89	12	東京都の月ごとの平均気温 他に、108ページ10-11行「東京都の月ごとの平均気温」	不正確である。 (東京都全体の平均気温ではない。)	3-(1)	
6	89	14	アイスクリームの支出額	生徒にとって理解し難い表現である。 (108ページ11～12行の同一散布図の説明内容と不対応である。)	3-(3)	
7	93	1	「上限」及び「下限」 他に、7行、9行、11行、21行、22行、23行	生徒にとって理解し難い表現である。 (「上限」、「下限」の意味が分からない。)	3-(3)	
8	105	4	時系列データ	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がないので分からない。)	3-(3)	
9	110	13	時速 (km) 他に、111ページの3つのグラフの横軸の「時速 (km)」	不正確である。 (時速を「km」とは表せない。)	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-155		学校 高等学校	教科 数学	種目 数学B	学年
番号	指摘箇所		指 摘 事 項	指 摘 事 由	検 定 基 準
	ページ	行			
1	70	7	どちらの方が正確だと思いますか。	生徒にとって理解し難い表現である。 (どのように判断させようとしているのか分からない。)	3-(3)
2	109	1 右	10の解答「8年めの間」	生徒にとって理解し難い表現である。 (どういう意味か分からない。)	3-(3)

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-156		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学B	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	41	4	漸化式から、順に数列のすべての項がただ1通りに定まる。	不正確である。 (漸化式だけでは「ただ1通り」に定まらない。)	3-(1)	
2	69	表	例11の2つの表のタイトル	誤りである。	3-(1)	
3	85	囲み	2～5行の「二項分布の正規分布による近似」のまとめの右にある矢印付囲みの「二項分布 $B(n, p)$ と平均、標準偏差が等しい正規分布に従う。」	不正確である。 (矢印付囲み左のまとめと合わない。)	3-(1)	
4	91	表	例19の表における「X」	生徒にとって理解し難い記号である。 (説明がないので分からない。)	3-(3)	
5	106	4	$P(Z \geq 1.64) \approx 0.95$ が成り立つ。	誤りである。	3-(1)	
6	127	8	このことを仮定に反映して	生徒にとって理解し難い表現である。 (何を仮定に反映するのか分からない。)	3-(3)	
7	127	15 - 21	練習11	生徒にとって理解し難い練習である。 (どの設定のもとで練習を解くのか分からない。)	3-(3)	
8	127	23	上限	生徒にとって理解し難い表現である。 (「上限」の意味が分からない。)	3-(3)	
9	142	13 - 14	東京都の月ごとの平均気温	不正確である。 (東京都全体の平均気温ではない。)	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-157		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学B	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	32 - 34		□2 数学的帰納法	学習指導要領に示す内容に照らして、扱いが不適切である。 (内容(1)のイのウの「他の証明方法と比較し多面的に考察すること。」に照らして、扱いが不適切である。)	2-(1)	
2	44	4 - 5	記号「 Σ 」を利用した $V(X)$ の計算	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (計算で使用している Σ の性質の説明がなく、計算が理解できないという支障を生ずるおそれがある。)	2-(1)	
3	54	18 - 19	確率分布曲線の性質	生徒にとって理解し難い表現である。 (どのような曲線のどのような性質を指すのか分からない。)	3-(3)	
4	69	5	母集団が平均 m 、標準偏差 σ の正規分布 $N(m, \sigma^2)$ にしたがうとき他に、12行「母集団が正規分布 $N(168, 6^2)$ にしたがうから」	生徒にとって理解し難い表現である。 (母集団が正規分布にしたがうとはどういうことか分からない。)	3-(3)	
5	73	7	長さの分布は正規分布にしたがい他に、20行「質量の分布は正規分布にしたがい」	生徒にとって理解し難い表現である。 (分布は分布にしたがうとはどういうことか分からない。)	3-(3)	
6	77	17 - 18	有意水準を p_0 に定めることは、 $1-p_0$ 以上の確率で起こると考えられる事象の範囲を設けておき	生徒にとって理解し難い表現である。 (「 $1-p_0$ 以上の確率で起こると考えられる事象の範囲」がどのような範囲か分からない。)	3-(3)	
7	89	図	箱ひげ図Bの破線他に、90ページのEの箱ひげ図の破線、91ページのEの箱ひげ図の破線	生徒にとって理解し難い図である。 (破線が何を示すのか分からない。)	3-(3)	
8	89	14	七海さんの吹き出しにおける「最小値のさらに左側に外れ値があるね。」	生徒にとって理解し難い表現である。 (外れ値をどのように考えているのか分からない。)	3-(3)	
9	89	15	七海さんの吹き出しにおける「箱の近辺」	生徒にとって理解し難い表現である。 (箱ひげ図のどの部分を指すのか分からない。)	3-(3)	
10	95	7 - 27	仕入れ数 x に対し、売れ残りが出る確率は $P(x)$ であるから、商品が x 個売れる確率は $1-P(x)$ である。～期待できる最大の利益の金額を求めてみよう。	学習上の支障を生ずるおそれがある。 ($x=21$ から $x \geq 22$ へ一般化する際に、売れ残る確率 $P(x)$ に対し、売れ残る個数が複数の場合となるが、複数の売れ残る個数と $P(x)$ の関係が分からず、内容が理解できないという支障を生ずるおそれがある。)	2-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-157		学校 高等学校		教科 数学		種目 数学B		学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準				
	ページ	行							
11	97	22	例2の図の点0	誤りである。	3-(1)				

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-158		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学C	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	75	21	数曲線	生徒にとって理解し難い表現である。 (どのような曲線なのか分からない。)	3-(3)	
2	76	8 - 9	準線1を $x=-p$ とする ほか23行の「準線は $x=-p$ 」, 77ページ4行の「準線は $x=-1/4$ 」, 8行 の「準線が $x=-2$ 」, 10行の「準線が $x=-5/2$ 」, 17~18行の「準線は $y=-p$ 」	不正確である。 (式と図形を混同している。)	3-(1)	
			, 85ページ4~5行の「漸近線は $y=b/a x$, $y=-b/a x$ 」, 7~8行の「漸近線は $y=3/4 x$, $y=-3/4 x$ 」, 12行の「漸近 線は $y=x$, $y=-x$ 」,			
			86ページ14~15行の「漸近線も $y=b/a x$ x , $y=-b/a x$ 」, 89ページ22行の「準線は $x=-1$ 」, 23行 の「準線は $x=-2$ 」, 90ページ19~20行の「漸近線は $y=\pm 1/$			
			$\sqrt{2} x-1$ 」, 96ページ16行の「 $y=x$ を漸近線とする 。」			
3	98	6 - 7	この放物線上の点A(x_1 , y_1)におけ る接線 $y_1 y=2p(x+x_1)$	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (示されている接線の方程式は「余力のある場合」 に学習するとされている93ページの「参考」で示さ れている式なので, 学習していない場合もあるため , 内容が理解できないという支障を生ずるおそれが ある。)	2-(1)	
4	113	17	点Pの媒介変数表示 ほか19~20行, 116ページ23行	生徒にとって理解し難い表現である。 (「点の媒介変数表示」の説明がないので分から ない。)	3-(3)	
5	116	22	20秒ごとにカップの向きが同じになる	生徒にとって理解し難い表現である。 (何を基準として向きが同じになるのか分から ない。)	3-(3)	
6	151	9 - 10	すべての頂点が辺で結ばれ, ひとつな がりになっているグラフ ほか160ページ14行の「ひとつながり のグラフ」, 161ページ1行の「ひとつながり」	生徒にとって理解し難い表現である。 (どのようなグラフを意味するのか分からない。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-158		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学C	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
7	155	17 - 18	条件に従って一定の手順を繰り返して最適な結果を求める方法をアルゴリズムという。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「最適」をどのような意味で使っているのか分からない。)	3-(3)	
8	162 - 171		「2 行列で表す」及び「3 グラフと行列」	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (2つの行列が等しいことの説明がなく、行列を用いて工夫して表現する学習を行う上で支障を生ずるおそれがある。)	2-(1)	
9	169	図	下の飛行ルートを示した図	不正確である。 (「東京」のえがき方)	3-(1)	
10	171	3	nの最小値	生徒にとって理解し難い表現である。 (どのような条件の下での最小値なのか分からない。)	3-(3)	
11	177	表	右下の「2次元表とモザイク図」で扱われている表 及び12～16行「右の表は、世界の5歳から17歳までの子どものうち、～まとめた表である。」	不正確である。	3-(1)	
12	185	5 - 6	平面上に直線がある場合を除き、空間における平行でない直線と平面は1点で交わります。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「平面」と「直線」の関係が分からない。)	3-(3)	
13	185	10	解くことができました。	脱字である。	3-(2)	
14	185	11	62ページの例題2も	誤りである。 (62ページに「例題2」はない。)	3-(1)	
15	188	3 - 4	よって、与えられた式は $(x-p)^2/a \pm (y-q)^2/b=1$ の形に変形できることが見通せます。	不正確である。 (このように変形できない場合もある。)	3-(1)	
16	201	16 中	相等…7, 49	誤りである。 (49ページに「相等」はない。)	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-159		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学C	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	9	5	Q 船Aと船Bは、このまま進むとぶつかってしまうのだろうか。	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (2つの船の位置がわからない。)	2-(1)	
2	15	7	$(2a)^{\wedge}\rightarrow$	誤りである。	3-(1)	
3	26	12	$a^{\wedge}\rightarrow= (OA)^{\wedge}\rightarrow $, $b^{\wedge}\rightarrow= (OB)^{\wedge}\rightarrow $ 他に、27ページ24行「 $b^{\wedge}\rightarrow=0$ 」	誤りである。	3-(1)	
4	73	1 - 2	主に関連するこれまでに学んだ内容 「直線の媒介変数表示」	生徒にとって理解し難い表現である。 (すべての生徒が1章「ベクトル」を学んでいるわけではない。)	3-(3)	
5	74	18	直線lを $y=-1$ とする 他に、75ページ14行「直線lを $y=-p$ とし」、26行「準線は $y=-p$ 」 76ページ2-3行「準線が $y=-1/4$ 」、6行「準線が $y=-4$ 」、9行「準線lがy軸に	不正確である。 (式と図形を混同している。)	3-(1)	
			平行な $x=-p$ 」、17行「準線は $x=-p$ 」、 22行「準線は $x=-2$ 」、25行「準線が $x=-3$ 」 85ページ6行「漸近線は $y=b/a x$, $y=-b/a x$ 」、8行「漸近線は $y=3/4 x$,			
			$y=-3/4 x$ 」、14-15行「2つの漸近線は $y=x$, $y=-x$ 」 86ページ11行「漸近線は $y=b/a x$, $y=-b/a x$ 」、15-16行「漸近線は $y=1/2 x$, $y=-1/2 x$ 」			
			90ページ16行「準線は $x=2$ 」、24-25行 「漸近線は $y=x+$, $y=-x+2$ 」 96ページ5行「準線が $y=3$ 」、18行 「 $y=x$ と $y=-x$ を漸近線とする」 110ページ4行「準線が $x=2$ 」			
6	79	13	楕円を 90° 回転させた楕円	生徒にとって理解し難い表現である。 (回転の中心の位置が分からない。)	3-(3)	
7	84	10 - 12	①をyについて解くと $y=3/5\sqrt{(x^2-5^2)}$ これと直線 $y=3/5 x$ との差	生徒にとって理解し難い表現である。 (「これと直線 $y=3/5 x$ との差」が何を意味するのか分からない。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-159		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学C	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
8	101	図	右上の図	不正確である。 (「赤点」と「青円」の対応)	3-(1)	
9	107	1 - 3	問9	生徒にとって理解し難い問題である。 (1)(2)で与えられた座標が、どのような座標なのかが分からない。)	3-(3)	
10	114 - 115		「複素数の和や差を図示しよう」 他に、132ページ5行「ベクトルでも、 2つのベクトルのなす角を求めたね。 」 136ページ4行「ベクトルでも内分点・ 外分点や円に応用して考えたね。」	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (「ベクトル」に関する説明がなく、内容が理解できないという支障を生ずるおそれがある。)	2-(1)	
11	121	11 - 12	$3+2i$ から反時計回りに 90° ずつ回転	生徒にとって理解し難い表現である。 (回転の中心の位置が分からない。)	3-(3)	
12	132	11	原点0を中心に点Qを回転させて点Rに 重ねる	不正確である。 (原点0を中心に点Qを回転させて点Rに重ねることはできない。)	3-(1)	
13	132	15 - 16	126ページで学んだように、複素数の積は原点0を中心とした回転を表す	不正確である。 (複素数の積は、回転のみを表すわけではない。)	3-(1)	
14	156	6	ページビュー数	生徒にとって理解し難い表現である。 (ページビュー数の意味が分からない。)	3-(3)	
15	157 - 178		「2節 行列を表す」及び「3節 離散グラフを表す」	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (2つの行列が等しいことの説明がなく、行列を用いて工夫して表現する学習を行う上で支障を生ずるおそれがある。)	2-(1)	
16	165	20	163ページのStep2-1では、2次正方行列の場合の積を定義した	生徒にとって理解し難い表現である。 (Step2-1のどこで「2次正方行列の場合の積」を定義したのか分からない。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-159		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学C	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
17	168 - 169		「3 行列の乗法の活用」における「ベクトル」の利用	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (「ベクトル」に関する説明がなく、内容が理解できないという支障を生ずるおそれがある。)	2-(1)	
18	171	図	12行下の「一筆書きができる離散グラフの例」の右端図	誤りである。	3-(1)	
19	185	12	$OP^{\wedge} \rightarrow = \square \text{タ} / \square \text{ソ} \times \square \text{シ} \sim 0C^{\wedge} \rightarrow$	生徒にとって理解し難い記号である。 (記号「 \times 」)	3-(3)	
20	188 - 189		「仕事に活かそう」で扱われている「行列」	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (「行列」に関する説明がなく、内容が理解できないという支障を生ずるおそれがある。)	2-(1)	
21	188	7 左	3次元 他に、左段30行「2次元」	生徒にとって理解し難い用語である。 (「次元」の説明がないので分からない。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-160		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学C	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	64	23	0L [^] → ほか65ページ18, 22行の「L」, 19, 21, 24行の「0L [^] →」,	誤りである。	3-(1)	
2	68	19 - 24	「Progress 考えてみよう・話し合ってみよう」	学習指導要領に示す内容と客観的に区別されておらず、また、発展的な学習内容であることが明示されていない。 (「ベクトルの考えが平面から空間に拡張できることを理解する」を超える問題)	2-(17)	
3	76	25	座標平面上におけるベクトル	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (「ベクトル」について説明がないので、内容が理解できないという支障を生ずるおそれがある。)	2-(1)	
4	104	7 - 8	x=-pを準線lとする ほか16行の「準線はx=-p」, 20行の「準線がx=-2」, 105ページ2行の「準線はx=1/2」, 10行の「準線がy=-p」, 12行の「準線が	不正確である。 (式と図形を混同している。)	3-(1)	
			y=-2」, 17行の「準線がy=-1/4a」, 113ページ10行の「漸近線はy=4/3 x, y=-4/3 x」, 114ページ11行の「漸近線はy=b/a x, y=-b/a x」, 18行の「漸近線はy=2/3			
			x, y=-2/3 x」, 116ページ17～18行の「漸近線は、～y=±2/3 x」, 21行の「漸近線は、～y=2/3 x+4, y=-2/3 x」, 118ページ10～11行の「接線はy=mx+3			
			」, 119ページ7～9行「双曲線をx ² -4y ² =4…① 直線をy=x+3…② とする。」, 143ページ3行の「準線がx=-3」			
5	150 - 159		2 行列と経路	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (2つの行列が等しいことの説明がなく、行列を用いて工夫して表現する学習を行う上で支障を生ずるおそれがある。)	2-(1)	
6	155	2 - 3	Aの第i行の行ベクトルとBの第j列の列ベクトルの積	生徒にとって理解し難い表現である。 (「積」がどのようなものか分からない。)	3-(3)	
7	162	2	数学Bでは、データを収集し、分析する方法を学んできた。	生徒にとって理解し難い表現である。 (すべての生徒が数学Bを学んでいるわけではない。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-160		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学C	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
8	167	1	点の大きさ ほか4, 9行の「点の大きさ」	生徒にとって理解し難い表現である。 (「大きさ」が何を示すのか分からない。)	3-(3)	
9	174	11 左	「p.141 節末問題」の5(1)の解答	誤りである。	3-(1)	
10	□4		発展 点と平面の距離	学習指導要領に示す内容の取扱いに照らして、扱いが不適切である。 (内容の取扱い(1)の「この科目は、内容の(1)から(3)までの中から適宜選択させるものとする。」に照らして、扱いが不適切である。)	2-(1)	
11	□4		発展 点と平面の距離	生徒にとって理解し難い表現である。 (72ページの別の発展的な学習内容をすべての生徒が既修であることが前提として記述されているので、理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-161		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学C	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	11	側注	19行右の側注「 $\leftarrow a^{\rightarrow} / a^{\rightarrow} $ は $1/ a^{\rightarrow} \cdot a^{\rightarrow}$ と書くこともある」	生徒にとって理解し難い表現である。 ($a^{\rightarrow} / a^{\rightarrow} $ の説明になっていない。)	3-(3)	
2	70	図	船の衝突とベクトルの図	生徒にとって理解し難い図である。 (点A, 点Bがどこにあるのか分からない。)	3-(3)	
3	97	23 - 24	2点A, Bからの距離の比が一定である点Pが描く図形は円になる。	不正確である。 (円にならない場合もある。)	3-(1)	
4	100	15 - 18	この図形は, $z_{n+1} = z_n^2 + c$ で表される点の移動をつぎつぎにくり返すことで描くことができる。	誤りである。	3-(1)	
5	103	9	準線1が $x=-p$ である 他に, 104ページ3行「準線は $x=-p$ 」, 16行「準線は $x=2$ 」, 105ページ2行「準線が $y=-p$ である」, 19行「準線は $y=1$ 」, 115ページ17行「漸近線は	不正確である。 (式と図形を混同している。)	3-(1)	
			$y=x, y=-x$ であり」, 121ページ16行「漸近線は, $y=x, y=-x$ 」, 17-18行「漸近線は $y-2=x-1, y-2=-(x-1)$ 」, 173ページ左25行「章末問題A…… p. 145」の■2の解答の「準線は $x=4$ 」			
6	105	14	練習3(1)「焦点(0, 1), 準線 $y=1$ 」	誤りである。	3-(1)	
7	140	8	離心率	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (離心率の説明は「選択教材」である思考力PLUSの127ページにあり, 学習しているとは限らないため, 内容が理解できないという支障を生ずるおそれがある。)	2-(1)	
8	143	14	カージオイドという。	生徒にとって理解し難い表現である。 (142ページ19行との関係が分からない。)	3-(3)	
9	144	13	□13の「a, b, cを定数とするとき,」 他に, 15行「ただし, $c \neq 0$ とする。」	生徒にとって理解し難い表現である。 (この条件がなぜあるのか分からない。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-161		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学C	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
10	150	2	福岡 他に、3行下の表の「福岡」、10行、 11-12行、例1のモザイク図の「福岡」	生徒にとって理解し難い表現である。 (「福岡」が何か分からない。)	3-(3)	
11	150	表	3行下の表	不正確である。	3-(1)	
12	150	図	例1のモザイク図	不正確である。 (横幅の比)	3-(1)	
13	151	12 - 13	各点の大きさ	生徒にとって理解し難い表現である。 (「大きさ」が何を示すのか分からない。)	3-(3)	
14	151	16 - 17	従業員数に応じた大きさの円で表した	生徒にとって理解し難い表現である。 (「大きさ」が何を示すのか分からない。)	3-(3)	
15	155	10	「CHECK 1節」の■1の○E「生徒の学 習時間、成績、人数の関係」	生徒にとって理解し難い表現である。 (どのようなデータを設定しているのか分から ない。)	3-(3)	
16	160 - 169		「2 行列」及び「3 離散グラフと行列 」	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (2つの行列が等しいことの説明がなく、行列を用 いて工夫して表現する学習を行う上で支障を生ずるお それがある。)	2-(1)	
17	168	4	「CHECK 2節」の■2(2)の「A-B」	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (行列の差は定義されておらず解答できないという 支障を生ずるおそれがある。)	2-(1)	
18	170	23 - 28 左	「1章 ベクトル」の「2節CHECK…… p.44」の■8の解答	誤りである。	3-(1)	
19	170	7 右	「1章 ベクトル」の「2節CHECK…… p.44」の■11の解答	生徒にとって理解し難い図である。 (点B' が何か分からず点Pの存在範囲がどこか分 からない。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-161		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学C	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
20	170	11 右	「1章 ベクトル」の「3節CHECK…… p. 66」の■13の解答	生徒にとって理解し難い解答である。 (どのように符号を選びとるのか分からない。)	3-(3)	
21	170	16 - 23 右	「1章 ベクトル」の「3節CHECK…… p. 66」の■16の解答	生徒にとって理解し難い解答である。 ($a \rightarrow, b \rightarrow, c \rightarrow$ の説明がなく分からない。)	3-(3)	
22	171	25 左	「1章 ベクトル」の「章末問題B1…… p. 68」の■8(1)の解答	生徒にとって理解し難い解答である。 (Dが何か分からない。)	3-(3)	
23	171	27 - 28 左	「1章 ベクトル」の「章末問題B1…… p. 68」の■9(1)の解答	生徒にとって理解し難い解答である。 ($n_1 \rightarrow, n_2$ が何か分からない。)	3-(3)	
24	172	13 左	「2章 複素数平面」の「章末問題A…… p. 99」の■4(2)の解答	誤りである。	3-(1)	
25	172	5 右	「3章 平面上の曲線」の「1節 CHECK ……p. 125」の■1(3)の解答	誤りである。	3-(1)	
26	173	7 左	「3章 平面上の曲線」の「2節 CHECK ……p. 144」の■12の解答	誤りである。	3-(1)	
27	173	6 右	「3章 平面上の曲線」の「章末問題B ……p. 146」の■8の解答の「 $y=1/4 x$ ($-4/\sqrt{5} < x < 4/\sqrt{5}$)」	誤りである。	3-(1)	
28	175	26 右	有効線分……4	誤りである。	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-162		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学C	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	106	12 - 15	方程式 $x^2/a^2+y^2/b^2=1$ …① において、 $b>a>0$ のとき、①はy軸上に 焦点がある楕円である。	不正確である。 (式と図形を混同している。)	3-(1)	
2	150	8	円の大きさは面積を用いることが多い 。	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (この図書のバブルチャートでは、円の大きさとして 何を用いているのか分からず、バブルチャートを 読み取る上で支障を生ずるおそれがある。)	2-(1)	
3	154 - 162		第2節 行列の活用	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (2つの行列が等しいことの説明がなく、行列を用い て工夫して表現する学習を行う上で支障を生ずるお それがある。)	2-(1)	
4	157	12 - 13	一般に、列の数がmの行列Aと行の数が mの行列Bの積ABも同様に定める。	生徒にとって理解し難い表現である。 (一般に、行列の積をどのように定めるのか分ら ない。)	3-(3)	
5	162	8 - 11	そして、積PQの(1,1)成分は、行列Pの 第1行と行列Qの第1列の成分を掛け合 わせたものであるから、MMULT (A1:C1,E1:E3)から6となる。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「MMULT(A1:C1,E1:E3)」が何か分からない。)	3-(3)	
6	166 - 167		曲線の回転と複素数平面	発展的な学習内容であることが明示されていない。 (直線や曲線の回転移動の学習)	2-(17)	
7	172		□2 サイクロイドと新幹線 (第3章 平面上の曲線) 発展(数学Ⅲ)	学習指導要領に示す内容を発展的な学習内容として 扱っている。	2-(15)	
8	184	35 - 36 右	⇔発展 $p \rightarrow ra \rightarrow +sb \rightarrow +tc \rightarrow$ ただし、 $r+s+t=1$	学習指導要領に示す内容と客観的に区別されていな い。	2-(17)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の
第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-163		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学C	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	4	22 - 23	インターネット接続に必要な費用や通信費など	誤記である。	3-(2)	
2	62	9	$OP \rightarrow$ 他に, 11行	生徒にとって理解し難い記号である。 (「P」が何か分からない。)	3-(3)	
3	87	16	複素数 z , i の表す点を, それぞれ P , C とすると,	相互に矛盾している。 (19行目や図の点 $C(-2i)$ と異なっている。)	3-(1)	
4	129	3 - 15	光: $OP \rightarrow = OS \rightarrow + SP \rightarrow$ と考えると, ~変化を観察しよう。	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (「ベクトル」について説明がないため, 内容が理解できないという支障を生ずるおそれがある。)	2-(1)	
5	133	2	女子24人	相互に矛盾している。 (問1の下のグラフ)	3-(1)	
6	140	図	例5右下のモザイク図	不正確である。 (横幅の割合)	3-(1)	
7	141 - 149		\square 3 行列	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (2つの行列が等しいことの説明がなく, 行列を用いて工夫して表現する学習を行う上で支障を生ずるおそれがある。)	2-(1)	
8	144	11	m 列の行列 A と m 行の行列 B の積も, 同様に定める。	生徒にとって理解し難い表現である。 (積をどのように定めるのか分からない。)	3-(3)	
9	153	9	このような表し方を置換という。	生徒にとって理解し難い表現である。 (置換が何か分からない。)	3-(3)	
10	155	10	このような計算を置換の積といい	生徒にとって理解し難い表現である。 (どのような計算のことか分からない。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-163		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学C	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
11	157	13	同じ数字に出てくる。 他に、24-25行「同じ数字に出てくる あみだくじ」	生徒にとって理解し難い表現である。 (どのような状況か分からない。)	3-(3)	
12	160	18 - 19 左	「章末B問題(91ページ)」の2.「点Bは 、点Aを点Cのまわりに $\pi/2$ 回転した点 と考えるとよい。」	生徒が誤解するおそれのあるヒントである。 ($\pi/2$ 回転する場合だけを考えればよいと誤解する おそれがある。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-164		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学C	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	表見返 I	17 右	3 放物線 98	相互に矛盾している。 (98ページの表題と異なっている。)	3-(1)	
2	6	23 - 24	上の図において、3つの有向線分AA', BB', CC' は、始点は異なるが、いずれも向きが同じで大きさも等しいので、	生徒にとって理解し難い表現である。 (上の図についてこのように言える根拠がなく分からない。)	3-(3)	
3	96	8 - 9	①は、y軸上の2点～を焦点とする楕円である。 他に、101ページ7-10行「①は、y軸上の2点～を焦点とし、2直線～を漸近線とする双曲線である。」	不正確である。 (式と図形を混同している。)	3-(1)	
4	109	7	凸面鏡	誤りである。	3-(1)	
5	111	11 - 12	地球の公転軌道の離心率eは、④より , $e = \sqrt{a^2 - b^2} / a$	生徒にとって理解し難い表現である。 (④より得られることが分からない。)	3-(3)	
6	115	7	右の図のようにθを導入し、	生徒にとって理解し難い表現である。 (どのように導入するのか分からない。)	3-(3)	
7	122	図	アルキメデスの渦巻線の図	相互に矛盾している。 (10行目のθの範囲と合っていない。)	3-(1)	
8	134	23 - 24	この行列A ² において、たとえば(1, 5)成分は、Pからシャトルバスを1回乗り継いでQへ移動する方法が2通りであることを示している。	誤りである。	3-(1)	
9	140	6 - 7	●注 パレート図は、それを普及させたヴィルフレド・パレートの名前に由来している。	不正確である。	3-(1)	
10	145	4	c^{\rightarrow}	生徒にとって理解し難い記号である。 (説明がなく分からない。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-164		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学C	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
11	148	1 - 24	同じ平面上にある条件 ~ $z=3$ ■	学習指導要領に示す内容と客観的に区別されておらず、また、発展的な学習内容であることが明示されていない。 (ベクトルの考えが平面から空間に拡張できることを理解することを超える学習)	2-(17)	
12	153	19 - 24	柔軟性を養おう	発展的な学習内容であることが明示されていない。 (複素数の実数倍, 和, 差, 積及び商の図形的な意味を理解することを超える学習)	2-(17)	
13	168	33 左	一の実数倍……129	誤りである。	3-(1)	
14	170	12 左	「第1節 節末問題(27ページ)」の□2(3)の解答	不正確である。	3-(1)	
15	170	25 - 26 左	「第1節 節末問題(27ページ)」の□6のヒント	誤りである。	3-(1)	
16	171	7 右	「章末問題(59~61ページ)」の■5の「2:1」	誤りである。	3-(1)	
17	173	7 - 10 右	「第2節 節末問題(87ページ)」の□1の解答	誤りである。	3-(1)	
18	173	25 右	「第2節 節末問題(87ページ)」の□5の(1)のヒントの「 $\alpha^2 - \alpha\beta + 4\beta^2 = 0$ 」	誤りである。	3-(1)	
19	174	22 左	「章末問題(88~89ページ)」の■5(3)の解答	不正確である。	3-(1)	
20	176	3 右	「章末問題(124~125ページ)」の■11のヒントの「第1式」及び「第2式」	生徒にとって理解し難い表現である。 (どの式を指すのか分からない。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-164		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学C	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
21	176	15 - 17 右	「章末問題(142ページ)」の■1(3)のヒントの「これは(x, y)が(0, 1), (1, 0)のとき $z=0$ であることに矛盾することを示せばよい。」	誤りである。	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-165		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学C	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	86	24	複素数の和は、ベクトルの和と対応させて考えることができる。 ほか103ページ22行「線分の分点を表す複素数は、ベクトルと対応させて考えることができる。」	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (「ベクトル」について説明がないので、内容が理解できないという支障を生ずるおそれがある。)	2-(1)	
2	171	グラフ	練習2のバブルチャート	不正確である。	3-(1)	
3	172 - 181		「2 行列による表現」, 190～193ページ「4 離散グラフと行列の関連」 及び194～195ページ「補足 行列の積 ABとBA」	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (2つの行列が等しいことの説明がなく、行列を用いて工夫して表現する学習を行う上で支障を生ずるおそれがある。)	2-(1)	
4	182	図	「「四国の乗り物ガイド」を加工して作成」した右図	不正確である。 (左図の鉄道案内図と対応していない。)	3-(1)	
5	196	13	$OH^{\wedge} \rightarrow = \square A \times \square I$	生徒にとって理解し難い記号である。 (記号「 \times 」)	3-(3)	
6	200	7	円C_2が円C_1上を回転した回数	生徒にとって理解し難い表現である。 (何を基準として回転した回数を数えるのか分からない。)	3-(3)	
7	205	3 - 4 右	「演習問題A(p.113)」の2の解答の「 $\angle A$ 」, 「 $\angle B$ 」	生徒にとって理解し難い記号である。 (「A」, 「B」の説明がないので分からない。)	3-(3)	
8	207	13 右	「 \square 総合問題(p.196～200)」の6(3)のヒントの「点S」	生徒にとって理解し難い記号である。 (「S」の説明がないので分からない。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-166		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学C	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	148	19 - 20	このタイヤと地面の接点Pを定点とする	生徒にとって理解し難い表現である。 (点Pがタイヤの周上の点なのか、地面の点なのか分からない。)	3-(3)	
2	157	グラフ	練習2のバブルチャート	不正確である。	3-(1)	
3	158 - 165		2 行列による表現 及び174-177ページ「4 離散グラフと 行列の関連」	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (2つの行列が等しいことの説明がなく、行列を用いて工夫して表現する学習を行う上で支障を生ずるおそれがある。)	2-(1)	
4	165	4	Aの第i行を取り出した行列とBの第j列 を取り出した行列の積	生徒にとって理解し難い表現である。 (「積」がどのようなものか分からない。)	3-(3)	
5	166	図	「四国の乗り物ガイド」を加工して 作成した右図	不正確である。 (左図の鉄道案内図と対応していない。)	3-(1)	
6	169	19 - 22	右の離散グラフは～2つの頂点を含む 県が陸続きであるならばその間を辺で 結んだものである。	生徒にとって理解し難い表現である。 (右の図と対応させると、「陸続き」の意味が分からない。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-167		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学C	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	151	図	練習2のバブルチャート	不正確である。	3-(1)	
2	152 - 159		□2 行列による表現 及び168～171ページ「□4 離散グラフと行列の関連」	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (2つの行列が等しいことの説明がなく、行列を用いて工夫して表現する学習を行う上で支障を生ずるおそれがある。)	2-(1)	
3	159	4	Aの第i行を取り出した行列とBの第j列を取り出した行列の積	生徒にとって理解し難い表現である。 (「積」がどのようになるのか分からない。)	3-(3)	
4	160	図	「四国の乗り物ガイド」を加工して作成した右図	不正確である。 (左図の鉄道案内図と対応していない。)	3-(1)	
5	163	18 - 21	右の離散グラフは～2つの頂点を含む 県が陸続きであるならばその間を辺で結んだものである。	生徒にとって理解し難い表現である。 (右の図と対応させると、「陸続き」の意味が分からない。)	3-(3)	
6	172	13	$0H \rightarrow = \square A \times \square I$	生徒にとって理解し難い記号である。 (記号「 \times 」)	3-(3)	
7	176 - 177	右18 -左3	章末問題(p. 48, 49)における7, 8, 9	誤りである。	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-168		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学C	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	14	2	ベクトルと実数の乗法	生徒にとって理解し難い表現である。 (1行のタイトルに照らして)	3-(3)	
2	82	17	練習10(3)	生徒にとって理解し難い問題である。 (「 α 」が示されていない。)	3-(3)	
3	115	10	$a>b>0$ とする。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (双曲線 $x^2/a^2-y^2/b^2=1$ を考えるとときには、この条件が必要であると誤解するおそれがある。)	3-(3)	
4	143	グラフ	練習2のバブルチャート	不正確である。	3-(1)	
5	144 - 151		2 行列による表現 及び160～163ページ「4 離散グラフと 行列の関連」	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (2つの行列が等しいことの説明がなく、行列を用いて工夫して表現する学習を行う上で支障を生ずるおそれがある。)	2-(1)	
6	151	4 - 5	Aの第i行を取り出した行列とBの第j行 を取り出した行列の積	生徒にとって理解し難い表現である。 (「積」がどのようになるのか分からない。)	3-(3)	
7	152	図	「四国の乗り物ガイド」を加工して 作成」した右図	不正確である。 (左図の鉄道案内図と対応していない。)	3-(1)	
8	174	26 右	等しい…8	誤りである。 (8ページに「等しい」はない。)	3-(1)	
9	175	10 中	$a^{\wedge}\rightarrow=b^{\wedge}\rightarrow\dots 8$	誤りである。 (8ページに「 $a^{\wedge}\rightarrow=b^{\wedge}\rightarrow$ 」はない。)	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-169		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学C	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	132	18	楕円	誤りである。	3-(1)	
2	172	グラフ	15行下の棒グラフの縦軸「不良原因数」 他に、173ページ12行下のグラフ、 174ページ2行下のグラフ、 175ページ14行下のグラフの縦軸	生徒にとって理解し難い表現である。 (「不良原因数」の意味が分からない。)	3-(3)	
3	178 - 187		「2 行列による表現」、 196-199ページ「4 離散グラフと行列 の対応」 及び200-201ページ「補足 行列の積AB とBA」	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (2つの行列が等しいことの説明がなく、行列を用いて工夫して表現する学習を行う上で支障を生ずるおそれがある。)	2-(1)	
4	179	10	前ページの行列A, B	生徒にとって理解し難い表現である。 (前ページに行列A, Bはないので、分からない。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-170		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学C	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	9	9	$0 \cdot a \rightarrow$	生徒にとって理解し難い記号である。 (記号「 \cdot 」)	3-(3)	
2	60	10	複素数 $z=a+bi$ を表す点を、 $P(z)$ または $P(a+bi)$ と書く。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「 P 」が何か分からない。)	3-(3)	
3	74	18 - 19	それでは、3次以上の高次方程式や係数が複素数の場合、解はどのようになるだろうか。	生徒にとって理解し難い表現である。 (何の係数が複素数の場合か分からない。)	3-(3)	
4	121	4 - 6	2つの行列において、行列Aの列の数と行列Bの行の数が等しいとき、それらの行列の積 AB が計算できる。	生徒にとって理解し難い表現である。 (どのように計算できるのか分からない。)	3-(3)	
5	123	17	今後、この章ではとくに断らない限り、 Δ は14行目を意味するものとする。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「 Δ 」が何を意味するか分からない。)	3-(3)	
6	137	21	行列「 M 」 他に、138ページ2行行列「 N 」、5行の行列	生徒にとって理解し難い行列である。 (どのように行列を作っているのか分からない。)	3-(3)	
7	142	8 - 9	人口の大きさを円の半径として	相互に矛盾している。 (右のグラフの円の大きさの関係と異なる。)	3-(1)	
8	142	19 - 20	国内総生産の大きさを円の半径で表してかいている。	相互に矛盾している。 (右のグラフの円の大きさの関係と異なる。)	3-(1)	
9	172 - 176		話題 放物線・楕円・双曲線に関連する性質	学習指導要領に示す内容の取扱いに照らして、扱いが不適切である。 (内容の取扱い(1)の「この科目は、内容の(1)から(3)までの中から適宜選択させるものとする。」に照らして、扱いが不適切である。)	2-(1)	
10	172	2	4章「式と曲線」で学習した放物線・楕円・双曲線	生徒にとって理解し難い表現である。 (すべての生徒が4章「式と曲線」を学んでいるわけではない。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。